

令和5年度 学校評価書【新庄北高等学校最上校】

学校関係者評価の評価基準
 A:とても良く評価できる B:概ね評価できる
 C:やや評価できない D:まったく評価できない

自己評価の基準 A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった				学校関係者評価	学校関係者の意見・要望	
番号	評価項目	今年度の成果と課題	自己評価	次年度への改善点	学校関係者の意見・要望	
1	教育方針 学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 本校の掲げる教育スローガン「どの生徒も伸ばす、伸びる生徒はさらに伸ばす」、経営方針「地域を支え、地域から愛される最上校」を具現化するため、生徒の個性と主体性を大切に教育活動に教職員が積極的・協働的に取り組み、一定の成果を上げた。上位層をさらに伸ばすための手立てが課題である。 ◆ 個に応じたきめ細やかな指導を学校全体として継続することができた。生徒の個性が多様化し、必要な支援も多様化・複雑化しているため、特別支援に関する指導についてさらに研修を深める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各教科の授業と朝学習や学校設定科目「リラーニング」による学び直し、総合的な探究の時間を関連づけて学習することや、教科横断的な学びにより、効果的な学びとなるよう工夫していく。さらに、分掌・学年・教科間の連携を強化して上位層の学力伸長も含めた更なる取り組みの向上を図る。また、生徒の自己有用感・自己肯定感を向上させる様々な活動を支援する。 ◆ 個に応じた指導・支援について、校内研修により能力向上を図り、外部講師による研修会でより幅の広い支援方法について学び深めていく。また、外部機関との連携も更に密にしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 最上校独自の教育を進めて、充実していくように指導をよろしく願いたい。 ◆ 「どの生徒も伸ばす、伸びる生徒はさらに伸ばす」という教育スローガンのもとに、先生方がしっかり取り組んでおられることに感謝します。 ◆ 様々な支援を必要とする生徒が入学することが多くなっており、手を尽くしても途中で挫折してしまう生徒もいるわけですが、できればどういった経緯で学校を離れたのか、示していただければ今後の参考になるように思います。
2	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ◆ シラバスの配付や計画的な朝学習の取組み、リラーニング、TT授業の実践、ICT機器の活用等の手厚い指導を継続し、生徒の基礎学力向上を図った。十分な家庭学習時間の確保や学習時間に合わせた成果が出るような指導が今後の課題である。 ◆ 公開授業、UDの視点を取り入れた授業実践の研修会や授業アンケートの実施により、指導法を点検・改善し「わかる授業づくり」を実践した。 ◆ Google Classroomでの図書館通信の発行、図書委員会企画、朝読書活動により、充実した読書教育を実践できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 家庭学習習慣を確立し基礎学力を向上させるため、更に効果的な指導方法となるよう工夫改善していく。生徒の主体的、対話的で深い学びの実現に向けて、探究型学習を意識した授業改善についてさらに研究する。 ◆ ICT機器を活用した学習指導の研究を継続し、より効果的な活用法について校内研修等で情報共有する。 ◆ 生徒が関心を持ち、生徒のためになる図書選定や図書委員会活動の充実に一層努め、読書習慣の定着を支援する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 最上校の特徴として、個々の生徒間に学力の差があると思うが、大変な指導にはありがたく感じる。授業参観を行ってみて、楽しみながら学習しているように思われ良かった。 ◆ 何回か授業を参観させていただきましたが、生徒が真剣に授業を受けている姿が見られました。 ◆ 最上寮の生徒の様子をお聞きすると、テスト等はしっかり勉強して臨んでいるという報告を受けています。
3	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ◆ インターンシップや企業見学、進路ガイダンス、キャリアカウンセリング等を実施し、キャリア教育の充実を図った。また、進路だよりの発行や進路保護者会の実施等により、生徒・保護者の進路意識高揚につながった。 ◆ 生徒の進路実現に向け、全職員による面接指導、作文指導を行った。また、保護者による面接指導も実施し、学校とPTAが一体となった進路指導が実現できている。 ◆ オープンキャンパスや企業見学へ1回以上の参加を推奨し、進路目標達成に資することができた。1・2年生も、早めに参加することを推奨していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 3年間を見通し、適時適切な進路指導を行うために、進路課が中心となって有益な進路情報の提供、企画の実施について継続して研究する。地元と繋がりのある企業・講師への協力依頼も継続していく。 ◆ 「最上校版キャリアパスポート」などの進路対策ツールの充実を図るとともに、適切な進路選択のために、各種検査・外部模試等を活用していく。 ◆ 前年度就職者へのアンケート調査で、実態を把握して就業への支援に努める。また、学校生活におけるアドバイスを進路だよりにまとめて後輩への啓発とする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 年々、人口減少で労働力不足が懸念されるが、最上校では管内への進路先が多いように思われる。最上地域にとっては大変良いことであると思う。 ◆ 今年度、最上中との合同の職業体験を実施したことは画期的なことでした。その他にも職場体験等、自己啓発に積極的に取り組んでいることは評価できるものです。 ◆ 就職・進学は本人のみならず保護者にとっても大事なものであり、面接指導等を通して一体となった取り組みを今後とも期待します。
4	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 規律ある学校生活やルール・マナーを守って行動できるよう日常的な声かけや個人面談を行い指導した。最上寮生の様子を把握するため、各学年担任団が月1回の訪問を行い舎監との情報共有を図った。 ◆ 問題行動の未然防止に努めるため、各種講話の実施や定期的な校内巡回指導を行った。 ◆ 生徒会活動は校外外ともに活発であった。ボランティアも積極的に活動している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学校生活に落ち着いて取り組めるよう、基本的な生活習慣の確立を中心に据えて安心・安全な学校づくりを推進していく。 ◆ 問題行動、いじめの未然防止や早期発見のため、担任面談等をこまめに行い生徒の状況把握に務め、教職員間の情報共有を密にし、チームとして生徒指導にあたる。 ◆ 生徒数減少等も考慮した生徒会活動や学校行事の見直し、生徒の主体的な計画や運営など、行事の充実に向けて一層工夫する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 個々の生徒に合った指導で、運動会や文化祭等を通して見る限り、生徒指導は行き届いていると思う。 ◆ 青少年育成活動であいさつ運動や列車指導をする中で、最上校の生徒は特段の問題もなく落ち着いていると思いました。 ◆ 生徒全体に占める寮生の割合が増えており、先生方の寮の訪問による情報の共有は強化継続していただきたいと思います。
5	保健指導 安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 多様な生徒に対して、ケース会議を適宜実施のうえ、学年と連携して生徒へ適切に対応することができた。また、SCやSSWの助言により支援について検討することができた。定期的にSCとの面談を行い、生徒や保護者の困り感に向き合い対応することができた。 ◆ 年間を通して感染症予防対策に取り組んだが、1回だけ学年閉鎖の措置を講じた。流行期に限らず常日頃から、保健委員会の活動とも合わせて適切に対応していく。 ◆ 様々な状況を想定した防災計画を作成し実施することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 校内あすばら委員会とケース会議の充実を図るとともに、SCやSSWとの連携を強固にし、生徒のシグナルの早期発見、早期対応に努める。 ◆ 学年ごと多様な保健指導や個別指導を継続して実施し、健康で安全な学校生活を実現する。 ◆ 「さくら連絡網」による緊急連絡体制を周知徹底する。危機管理マニュアルの見直しを適宜図り、また、学校行事等での事前指導を行い、事故の未然防止に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 思春期の高校生の悩みに対するメンタルヘルス面での親身な相談活動に感謝するとともに、今後一層充実することが進路変更の防止になるものと考えます。
6	地域連携 その他	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各学年および地域活動部がボランティア活動に参加して社会性を育むとともに、地域貢献意欲の高揚を図ることができた。 ◆ 学校行事や各種活動における生き生きとした生徒たちの様子を地域住民の方々に伝えるため、ホームページの更新や最上校だよりの定期的な発行ができた。 ◆ 新庄北高本校との「キャンパス制」では、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、新事業や最上町に宮城県の高校と本校の生徒会役員を迎え有意義な交流活動も行えた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ボランティア活動において生徒の主体的な取組みを育成し、地域の方との距離を縮めるため、集会等で担当者から生徒へ直接募集を呼びかけてもらうような工夫を検討する。 ◆ 学校における生徒たちの様子を、これまで以上に充実した内容で即時的に情報発信できるようにしていく。 ◆ キャンパス制における交流の際、一部の生徒だけでなく、全校生が交流できる企画を多く計画していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域活動部の活躍等は町としても大変ありがたいと思う。広報にも多くの活動場が載せてあり頼もしく思う。町の方々(保護者)も最上校の良さを理解して、多くの生徒が目指す学校にしてもらいたい。 ◆ 生徒数の減少により、これまでのような地域行事への協力は難しくなっているのではと推測するところです。狙いを明確にして、学校の実態にあった活動にしていいただければと思います。 ◆ 幸高ラジオの活動に見られるような、生徒から出てきたアイデアを大切にしながら、これからの地域連携活動を展開していただければと思います。 ◆ 文化祭や運動会等の行事を中心に、地域の方が学校を訪れる機会を増やすべく、PR活動の工夫を図っていただければと思います。